

山形県教員「指標」(案)

山形県教育委員会

1 策定の趣旨

教育公務員特例法第22条の3に基づき、文部科学大臣が定める指標の策定に関する指針を踏まえ、山形県教育委員会と、県内教職課程認定大学、各市町村教育委員会、各学校、保護者、産業界等の共通認識の下、本県教員が高度専門職としての職責、経験及び適性に応じて身に付ける資質を明確化すること。

2 性格

指標は、本県教員が主体的に資質向上を図る際、教員としてのキャリアステージ全体を見通し、自らの職責、経験、適性に応じて、効果的・継続的な研修を行うための目安であり、県教育委員会が研修計画を策定する際に踏まえるべきものとする。

3 指標が対象とする教員等の範囲

県立学校、市町村立学校、市町村立幼稚園、山形大学附属学校園の、校長(園長)、副校長・教頭、主幹教諭、教諭(常勤講師及び短時間勤務教諭を含む)、助教諭、養護教諭、養護助教諭、栄養教諭とする。

4 校長の指標

校長の職責及び役割の大きさに鑑み、校長の指標を策定する。

5 本県が採用時に求める教員の姿(※山形県教員選考試験 基本方針より)

- (1) 児童生徒への深い教育愛と教育に対する強い使命感、責任感のある方
- (2) 明るく心身ともに健康で、高い倫理観と規範意識を備え、法令を遵守する方
- (3) 豊かな教養と高い専門性を身につけ、常に学び続ける姿勢をもつ方
- (4) 郷土を愛し、人とのつながりを大切にして、よりよい学校や地域社会を築こうとする方

6 本県教員に求める「着任時の姿」

「5 本県が採用時に求める教員の姿」(※山形県教員選考試験 基本方針より)に基づき、本県教育委員会が行う教員採用、及びその後の資質向上の前提となる、初任者に求める「着任時の姿」を、以下のとおりとする。

【 「着任時の姿」 】

○教諭(小学校、中学校、義務教育学校、高等学校の教諭及び主幹教諭)

【教職の実践に関する資質・能力】

- 1 児童生徒に対する深い教育愛をもっている。
- 2 児童生徒の実態に応じたよりよい人間関係づくりや集団づくりについて理解することができる。
- 3 学習指導要領を理解し、授業を行うことができる。
- 4 学習評価の意義と方法について理解している。
- 5 情報モラルを正しく理解し、ICT機器の適切な活用ができる。
- 6 インクルーシブ教育システムの考え方を理解している。

【教職の素養に関する資質・能力】

- 1 言葉遣いやマナーなどの社会人としての常識を身に付け、円滑な人間関係をつくることのできる。
- 2 明るく、心身ともに健康で、教養と教育に対する専門性を身に付けている。
- 3 学び続ける教員の重要性について理解している。
- 4 教育公務員にふさわしい倫理観と規範意識を備え、教育に対する強い使命感・責任感をもっている。
- 5 郷土を愛し、人とのつながりを大切にして、よりよい学校・園や地域社会を築こうとしている。
- 6 危機管理の重要性を理解し、危機意識をもって行動しようとしている。

○幼稚園教諭(※教諭との整合性を図りつつ、「児童生徒」を「幼児」に、「学習指導要領」を「幼稚園教育要領等」などに、文言を置き換えている。)

○養護教諭(※教諭と共通するものは除く。)

【養護教諭の実践に関する資質・能力】

- 1 養護教諭の職務と役割を理解し、日常の応急処置を実施することができる。
- 2 学習指導要領を理解し、保健指導、保健学習を行うことができる。
- 3 保健室の機能及び保健室経営について理解することができる。
- 4 人とのつながりを大切にし、児童生徒や教職員とコミュニケーションを図ることができる。

○栄養教諭(※教諭と共通するものは除く。)

【養護教諭の実践に関する資質・能力】

- 1 栄養教諭の職務と役割を理解し、食育に取り組むことができる。
- 2 学校給食の意義を理解し、給食を活用した食に関する指導を行うことができる。
- 3 学習指導要領を理解し、食に関する授業・指導を行うことができる。
- 4 栄養管理責任者としての役割について理解している。
- 5 学校給食衛生管理責任者としての役割について理解している。

7 指標の段階

指標には、本県教育委員会が新規採用教員に対して求める資質を「**着任時の姿**」として第一の段階に位置付け、それも含めて以下の段階を設ける。

○教諭、幼稚園教諭、養護教諭、栄養教諭のキャリアステージ（5段階）

- ・ 着任時の姿 （初任時）
- ・ 始発期 ※（初任時～3年目）
- ・ 成長期 ※（4年目～10年目）
- ・ 充実期 ※（11年目～20年目）
- ・ 組織運営期 ※（21年目～退職）

※キャリアステージごとに示した経験年数は、各教員が自ら資質向上を目指す際のあくまでも目安であり、研修を受ける際等に参考とするものである。

例えば、本県教員としては初任であっても、他県で教員としての経験を積んでいる場合などは、成長期にあたる研修で自らの資質向上を図ること等も考えられる。

8 指標の内容を定める観点

指標の内容を定めるため、教諭用、幼稚園教諭用、養護教諭用、栄養教諭用にそれぞれ、以下の観点を設定する。

教諭用	
A：教職の実践に関する資質・能力 （担任力）	B：教職の素養に関する資質・能力
<p>○生徒指導力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団指導力・学級経営力 ・ 児童生徒理解力・教育相談力 <p>○学習指導力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的授業力・カリキュラムマネジメント ・ 指導の積極的改善 ・ 教師としての専門性の構築、専門教科の指導力強化 <p>○ICT活用力・情報モラル</p> <p>○特別支援教育力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育の理解と実践力 	<p>○総合的な人間力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢にふさわしい社会力 ・ 豊かな人間性・教養 ・ 学び続ける姿勢 <p>○教育公務員としての自覚</p> <p>○チームマネジメント能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営参画意識 ・ 連絡調整力 ・ チーム運営力 ・ 後輩への指導・助言力 <p>○危機管理対応能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校安全の意識 ・ 学校情報管理の意識

幼稚園教諭用	
A：保育の実践に関する資質・能力	B：教職の素養に関する資質・能力
<input type="checkbox"/> 幼児理解力 ・ 幼児理解力・教育相談力 <input type="checkbox"/> 保育指導力 ・ 集団指導力 ・ 基礎的保育力・カリキュラムマネジメント ・ 指導の積極的改善 ・ 保育の専門性の構築 ・ 保健組織活動力 <input type="checkbox"/> ICT活用力・情報モラル <input type="checkbox"/> 特別支援教育力 ・ 特別な支援を必要とする幼児への指導・援助力	<input type="checkbox"/> ※教諭用と共通
養護教諭用	
A：養護教諭の実践に関する資質・能力	B：教職の素養に関する資質・能力
<input type="checkbox"/> 養護教育力 ・ 健康相談力 ・ 保健管理力 ・ 保健教育力 ・ 保健室経営力 ・ 保健組織活動力 <input type="checkbox"/> ICT活用力・情報モラル <input type="checkbox"/> 特別支援教育力	<input type="checkbox"/> ※教諭用と共通
栄養教諭用	
A：栄養教諭の実践に関する資質・能力	B：教職の素養に関する資質・能力
<input type="checkbox"/> 栄養教育力 ・ 食に関する指導力 児童生徒理解力、食育推進力、給食時間における食に関する指導力、教科等における食に関する指導力、個別的な相談指導力 ・ 学校給食管理力 栄養管理力、衛生管理力 <input type="checkbox"/> ICT活用力・情報モラル <input type="checkbox"/> 特別支援教育力	<input type="checkbox"/> ※教諭用と共通
校長用	
<input type="checkbox"/> 総合的な人間力 <input type="checkbox"/> 教育公務員としての自覚 <input type="checkbox"/> 経営・組織マネジメント力（学校経営力、人材育成力、連携・協働調整力） <input type="checkbox"/> 危機管理	

9 指標の構成

指標のキャリアステージ（5段階）を横軸とし、各観点を縦軸として、キャリアステージ及び観点到した項目内容を記述し、表を作成する。

また、各段階における重点として○印を付けた項目は、各教員が自らの資質向上を図るため研修を受講する際などに、目安として活用できるようにするものである。（その重点の時期以前に、研修及び教員としての経験等により身に付けておくことは、より望ましい。）

また、指標のキャリアステージ及び観点等を踏まえ、各教員が資質向上を図るための研修計画を策定する。

10 指標の文言

指標の文言について、教諭・養護教諭・栄養教諭用においては、めざす資質・能力像として示すため、文末表現を「～できる」としている。また、校長用においては、資質・能力の発揮という観点から、文末表現を「～を行う、～する」としている。